2024
2月号
第405号

教区だより

真宗大谷派京都教区 教化広報誌

Shinran 550th

〈慶讃テーマ〉
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

今月の「ことば」

好き嫌いの
とらわれが
私を
苦しめる

今月の「ことば」は、教区駐在教導が担当しています

CONTENTS

2・3面
今、この時に、親鸞聖人に遇う
長浜教区第21組 藤本 有（ふじもと たもつ）氏
近江第26組 比叡谷 紗誓（ひえたに さちか）氏

4面
特集 身近な仏教のことば
出版部会 藤野 顕生（ふじの あきお）氏

5面
特集 「是旃陀羅」問題に関する教区説明会
［本山］解放運動推進本部
丹波第2組 廣野 一道（ひろの いちどう）氏
山城第1組 藤井 洋（ふじい ひろし）氏

6面
特集 慶讃だより
丹波第3組
丹波第3組 廣瀬 江理子（ひろせ えりこ）氏

7面
教務所からのお知らせ
イマダカラ

8面
今月の行事予定

京都教区内の風景をお届けしています。『教区だより』では表紙写真の募集を行っております。詳しくは教務所（教区駐在教導）までお気軽にお問い合わせください。

今、この時に、親鸞聖人に遇う

宗祖が求めて歩まれた道を、私も歩むということ

長浜教区第二十一組浄福寺住職
藤本有

私が子どもの頃は、父母をはじめ周りの大人たちは、親鸞聖人のことを名前で言わずに御開山とお呼びしていました。お内陣の掃除をする際に「お前は御開山のところを掃除しなさい」と言われると、迷わずに親鸞聖人のところを手伝いました。御開山と親鸞聖人が同一人物であることを知ったのは、中学三年生の頃だったと思います。固有名詞ではなく、一般的な呼称を用いる方が親近感があり、真宗門徒と親鸞聖人との関係性がはっきりしていたのかもしれません。

昨年、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が厳修されました。この「宗祖親鸞聖人」という表記は「宗祖としての親鸞聖人」ということであり、「宗祖としての」という部分には、私たちと親鸞聖人との関係性を再確認せよとの願いが込められているように感じます。私たちにとって、親鸞聖人は単に歴史上の人物ではなく、偉業を成し遂げられた近寄りがたい存在でもありません。宗祖は、私たちに真宗門徒として生きる道、人間として生きるたった一つの道を示してくださったかけがえのない方だと、私は受け取っています。ですから、宗祖の御誕生と立教開宗を慶讃することは当然のことですが、もう一方で忘れてはいけないことがあると思います。それは、宗祖を我が宗祖として敬い、念仏の教えを押し開いていただいたことを我がこととして慶ぶということが、今現在に至るまで私たちに相続されている、ということです。そう言い切るためには、宗祖が示してくださった道を、私たちが確信をもって歩んでいなければいけないと思うのです。しかし、もしそうでないとするならば、私たちは未だ真宗門徒として誕生していないことになりはしないでしょうか。私たちが、改めて真宗門徒としての歩みを開始し、そしてその歩みを貫き通したときに、宗祖は私たちのことを真宗門徒として一緒に慶んでくださるのだと思います。

ここで、はっきりさせておきたいことがあります。それは、「宗祖が示してくださった道を歩むということは、どういうことか」ということです。かつて松尾芭蕉は、別れて帰国する弟子に餞として「古人の跡を求めず、古人の求めたるところを求めよ」という言葉を贈ったそうです。この言葉を、宗祖と私たちとの関係に当てはめるならば、宗祖の生涯や教えの数々について学ぶということは、宗祖が求められたことを、私たち自らも求めていくということになると思います。申すまでもなく、宗祖の九十年という人生は「すべての人が等しく救われる道を問い続けていく」というご苦労の生涯でした。ところが私は、その時々の自分の都合でしか仏法をいただくことができていません。おそらく、宗祖が求められた道とは別の道にいるのでしょう。

子ども報恩講（五村別院）

そんな私ですが、宗祖は「私、親鸞が歩んできた道、すべての人が等しく救われる道をあなたも共に歩み、お念仏申しましょう」と呼びかけてくださっていると、改めて強く思います。

今、この時に、親鸞聖人に遇う

無慙愧（むざんぎ）は名づけて人（にん）とせず

近江第二十六組 徳乗寺（とくじょう） 副住職
比叡谷（ひえたに） 紗誓（さちか）

これまで女性は、「女のくせに」「女性なんだから」と一段下がらされてきました。ときには、「女の子なんだから」という言葉と共に、生まれついたときに割り当てられた「女」性のために、「家事くらいできないと」とか、「無理して勉強しなくてもそこそこで」とか、「女子はちょっとひかえめでサポートに徹した方が愛される」などと、はっきりとした言葉ではなくとも、そんな空気の中で生きてきた女性もおられるのではないでしょうか。家事は性別関係なく、生きるために必要なスキルです。人から「愛されるために」ひかえめでいることが、本当にその人自身がしたいことでしょうか？それが善意のつもりでかけられることもあるから尚の事タチが悪い言葉です。言われた側は、息苦しさや、はっきりしないなりにモヤモヤを感じたかもしれません。直接かけられる言葉だけでなく、世間の風潮やマスコミの言葉にも、そういうことを当然としてきた空気があるように思います。

近年、性犯罪に関する世の中の空気が変わりつつあります。昨年は性犯罪に関する法律が改正されました。車内での迷惑行為禁止啓発ポスターの言葉も、「痴漢に気をつけて！」と被害者への啓発から、「痴漢は犯罪」などと、痴漢行為をする側に注意をする文言に変わってきました。以前は「春になると変なのが出てくる」と笑いながら言い、大勢の人間がいて時々その中にちょっと変な人が出てくる、だから、あなたが気をつけてちゃんと自分を守ろう、という世間の雰囲気で、私自身も、そんなものかと思っていました。しかし、世間は「痴漢行為は許さない」という空気になりつつあります。そういう空気感によっても、痴漢行為に及ぶ人は手が出にくくなります。又、痴漢行為は依存症だという医学的な見方があることも。それが結果的に、お互いを疑いの目で見る監視社会になるのではなく、周りの人を気遣い合う社会になればいいなと思います。

ある国の文化では、女性を男性の所有物として見なす見方があると聞きました。日本は一見そこまでではないように思いますが、痴漢行為の容認と通底していることがあると思います。女性の性の部分だけを取り上げることや、それを男性どうしで共有し楽しむことなど、女性の人格やその人個人を認めていないところには、目の前の人を「人」として見ているのか、ということが問われます。

私個人を振り返ってみた時、身近な人でも、元気にしていればそれを普通とし、そうでない時は自分にとって重荷と感じ有益でないと峻別し、その人をそのままに見ていない、そういう自分が知らされます。その自分自身の根性に気づかないと、外ばかり見てしまいます。そんな自分に気づかせてもらうために、私は仏の教えを聞かなくてはならないと思います。

特集　身近な仏教のことば

私たちのまわりには様々な「ことば」があふれています。「ことば」は、常に新しく生み出され、変化変容し、使われなくもなります。人の営みとともに今日まで伝えられてきた「ことば」の中には、仏教から生まれた「ことば」が数多くあります。日常に使われている「ことば」が、実は仏教由来で、でも本来の意味とは異なるということも、たくさんあります。そんな、日常生活に溶け込んだ仏教用語に目を向け、本来の意味をたずねてみます。(不定期連載)

第二回　「うろうろ」

出版部会　藤野顕生

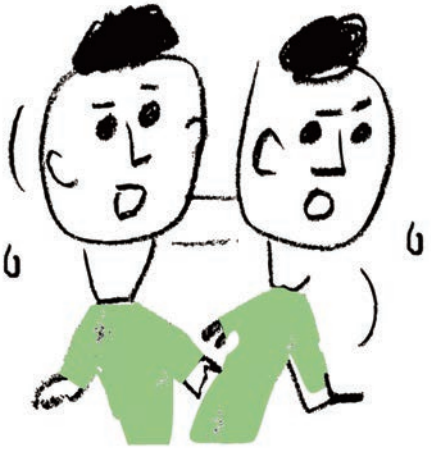
道に迷ったり、どうしてよいかわからなくて困ってしまう様を「うろうろする」と言いますが、これは仏教の「有漏」が語源だそうです。「有漏」とは、真宗新辞典（法蔵館）によると「有はものの存在、または所有を意味する」「漏は煩悩のこと、漏には不浄を流出する意、また迷いの世界に留め住せしめる意がある」とあります。煩悩によって心が惑い、迷いの世界から抜け出せない状態から「うろうろ」という表現が生まれたそうです。

「有漏」という語で思い浮かぶのは「漏尽通の願」です。本願の第五願から第十願にかけて六神通の願が誓われていますが、宿命通（あらゆる出来事や人々の歴史・歩みを知る力）、天眼通（あらゆる存在から目を逸らさない力）、天耳通（どんな声にも耳を傾ける力）、他心通（他者の心をよく知る力）、神足通（どんな場所へもすぐに駆け付ける力）と、五つの神通の願が誓われたあと、最後に第十願で漏尽通（煩悩によるとらわれの心から解放された身となる）ということが誓われています。五つの神通の願に続けて誓われているということは、それが単に「煩悩を無くそうとする誓い」ではなく「神通を得た身に執着しない」という誓いである点に大きな意義があるのだ、と聞かせていただいたことがあります。自分の能力や経験にとらわれたりしない、人のためにこれだけしてあげたのだと誇ることもない、だから仏は自在である、ということです。

『観経疏』によると、提婆は自らの野心のために神通力を得ようと舎利弗らに教えを乞うのですが、その野心を見透かされ断られた、とあらわされています。有漏の身のままで神通力を得ようとした提婆には、第十願のこころが欠けていたわけです。この提婆の姿は、私たちの在り方と同じではないでしょうか。

私が二十歳くらいの頃に、急速に携帯電話が普及し始めました。それまで別段、不便さを感じる事もなかったのに、気がつけば片時も携帯電話を手放せない生活に変わってしまいました。現在はスマホの普及により、通話だけではなく、あらゆる情報がすぐに手に入るようになり、SNSの普及によってたくさんの人とつながることができるようになりました。昔の人からすればそれこそ神通力を得たようなものかもしれません（もちろん本願に誓われている神通力とは全く違いますが）。しかし、それで私は何かはっきりしたのかというと、却ってうろうろ迷う事が増えただけのように思います。多くの情報に踊らされ、少し聞きかじった知識で得意気になり、他人の動向ばかり気になり、自分がどこを向いているのかわからないのが実情です。そこからは何も見えてきません。

六神通の願を通して「あなたは何を見聞きし、知ったつもりになっているのか、何者かになったつもりでいるのか、何も見ておらず、何も聞いていないのではないか」と問いかけられているように思います。



特集［本山］解放運動推進本部

「是旃陀羅」問題に関する教区説明会

解放運動推進本部が主催する、「是旃陀羅」問題に関する教区説明会が行われました。全国各教区で行われ、教区から各地区や組へと順次展開してまいります。このたび参加された方から、感想をいただきました。

丹波第二組 寶福寺 住職 廣野 一道

昨年の十二月一日に開催された標記の説明会の感想を出版委員さんから懇請された。

正直に言うと、私は差別問題に関して意識が低く、意図的に避けてきた。己の差別意識が露見してしまうのを恐れるからである。この感想でもそれが散見されると思うが、ご指導を願うところである。

さて、当日は解放運動推進本部による三時間近い説明会であったが、質疑応答に割かれる時間は少なかったのが残念であった。スライドを使って、是旃陀羅問題のおおまかな経緯やテキスト『是旃陀羅問題について』の説明があった。特に観無量寿経の「是旃陀羅」の現代語訳について、なぜ単に「旃陀羅である」と訳さずに、「旃陀羅の所行である」「旃陀羅と同様である」と意訳してきたのかについて丁寧に説明がなされたが、指月の譬ではないが、腑に落ちない。

スライドの資料は後日配布されるとのことであったので、それを待ちたい。今後、全ての組において今回配布されたテキストを題材にした学習会を開催していくことになるとのことであった。説明に使う資料以上に、説明する人の向き合い方が問われることになる。

個人的には、現代では差別とされているお聖教の表現についての親鸞聖人の解釈や姿勢、現代のさまざまなマイノリティへの差別問題に関心を持ち続けたい。

山城第一組 閑唱寺 住職 藤井 洋

説明会に先立って配布された学習冊子「是旃陀羅問題について」を一読して、よく分らないというのが実感であった。二十頁余りの冊子の半分を費やして、「是旃陀羅」という経文を「母を殺すのは旃陀羅の所行である」と読むのは誤りとし、現代語訳の訂正を提示されている。そう訂正すれば、「是旃陀羅」が差別表現でなくなるのか？その趣旨が呑み込めなかった。

説明会では、広く問題の背景・歴史につき、映像資料を参照しつつ説明していただいたので、より分りやすかったと思う。「母殺し＝旃陀羅の所行」とする解釈は近代に新たに付加された差別的解釈であり、観経を読み直すことでその誤りを確かめるという意義は理解できた。しかし、これを以て「韋提希の苦しみの元は、差別の上に成り立つ社会であり、それを厭うことが韋提希に浄土を求めさせたのだ」というような読み方が妥当かどうかは、私にはよく分らない。

いずれにせよ、この学習冊子を結論として教え込む学習会をしようというのではなく、これを出発点として皆で議論し考えていこうという趣旨であるとの説明であった。

説明会の中で、最も心に残ったのは、泉惠機先生が西光万吉氏におっしゃったという「私たち僧侶がきちんとしていたら、あなた方に水平社を創立させる必要はなかった」という謝罪の言葉である。この言葉に共感できるであろうか？今後の学習会を通して、一人一人が部落差別問題に当事者という感覚を持てるようになるかどうかが大切な一点であると思われる。

特集 慶讃だより

丹波第三組 慶讃法要お待ち受け大会

各地での慶讃法要の様子をお届けしています。丹波第三組で十一月に行われたお待ち受け大会の様子をお伝えします。

丹波第三組永領寺 衆徒 廣瀬江理子

丹波第三組では、二〇二三年からの三カ年で、各寺院の報恩講を「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要お待ち受け大会」と位置づけ、各寺院で実行委員会を組織し、僧侶やご門徒の参り合いを行うこととなった。そのスタートとして去る十一月四日(土)・五日(日)の両日、福知山市夜久野町の本光寺様にて、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃お待ち受け法要兼報恩講法要」が厳修された。

私は法要二日目にお参りさせていただいた。

最初に皆さんでお斎をいただいた。先代の頃から大事に使われてきた塗りの椀に、一汁三菜が盛り付けられていた。炊き込みご飯、けんちん汁、煮しめ、白和え、いとこ煮。どれもおいしく、和やかなお斎の席を楽しんだ。ご住職やご門徒方との会話で印象に残っているのは、昔から伝わる献立を、その時のお斎当番のご門徒方が相談しながら作り上げているということ、今回の慶讃法要が特別なわけではなく、毎年の報恩講をお迎えするのに、外掃除、お飾り、お斎作りなどの役割をご門徒方が一体となり取り組んでいるということだった。ご先祖が大事にしてきた伝統を守り、今の私たちのところで考え、作り上げる姿に、懐かしさとともに、その伝統を継承していく難しさを感じる現代社会で守られていることに、頭が下がる思いがした。

休憩の後、正信偈同朋奉讃のお勤めに続いて、真宗大谷派僧侶でシンガーソングライターの鈴木君代師より「声を聴くということ」の講題でご法話をいただいた。

鈴木師はギターの弾き語りを交えながら、親鸞聖人が生涯をかけて、ただ念仏と示されたこと、「あなたを生きよ」「真実を生きよ」という声を聴き続けていくことの大切さを繰り返しおっしゃった。お念仏は、優劣をつけることで価値を見つけようとする私たちに、仏さまが「それでいいのか」と問うてくださる呼びかけである。決して私たちを見捨てることのない仏さまの願いが、南無阿弥陀仏の言葉となって、私たちのところに届けられている。仏さまからの声を聴くことこそ真宗門徒の喜びであると思う。

また、歌の中で「いのちいっぱい　生きてほしいと　願われている」「花びらは散っても花は散らない」と歌われ、そのことば一つ一つが親鸞聖人から私たちに差し向けられていることばとして、丁寧に紡いでくださった。ご自身の幼少期のことや、その経験があったから今の自分に出遇えたこと、すべてのことが今の自分に繋がっている、そうなるためのご縁だったと話された。力強く、優しい歌声が響いた法要は温かい雰囲気の中に幕を閉じた。

今回のお待ち受け法要の参り合いは、自坊以外の報恩講法要に触れることができ、私自身とても興味深く参詣させていただいた。自坊では二〇二五年にお迎えする。脈々と受け継がれる親鸞聖人の教えを聴きながら、しっかりとお迎えしたいと思う。

教務所からのお知らせ

【住職任命者】

二〇二三年十二月十三日付

・近江第二組 願信寺　小山 純信

・近江第十一組 養照寺　髙木 宣臣

【敬弔】

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

・丹波第三組 明顕寺 前住職　廣崎 義徳　八十九歳

二〇二三年 四月 七日

〔寺院教会番号順 敬称略〕

教化伝道冊子『土着した親鸞』発刊のお知らせ

教化推進本部出版部会の出版事業「教化伝道冊子」の第一弾として、大桑斉氏の「土着した親鸞」を冊子化いたしました。本誌にて二〇〇九年四月から二〇一一年三月まで二年間連載されたものを一冊にまとめたものです。二百部限定で在庫がございます。聞法会で配布するなどご入用の方は、京都教務所までご連絡ください。販売はいたしませんが、ご懇志は謹んで拝受いたします。（担当・赤松）

イマダカラ

愛用していたスマートフォン（以下、「スマホ」と記載）が故障した。

三年半もお世話になったが、ついに私の雑な扱いに耐え切れずストライキを起こしたように思えてならない。

もはや生活面で手放せないスマホ。私宛に電話や連絡があった際にすぐに対応できなかったら相手の方に申し訳ないという気持ちが高まり、翌日に携帯ショップへ走った。

スマホが使用できなくなるとこんなにも落ち着かなくなる私と、スマホを手放せる時間をもらったようで束の間の安心感を覚えた私がいた。

通信速度が速いスマホも急速に普及し、特にZOOMやテレビ電話のようなリアルタイム性が重要な通信も、遅延が生じにくくなった。

また今後、通信事業は遠隔医療や自動運転車など、高速・低遅延の通信が求められる分野での活用が期待されているという。

パソコンの普及、通信事業の進化のおかげで、仕事は楽に、速やかにできるようになった。だがそれによって時間の余裕ができるわけでもなく、逆に多忙になってきてはいないだろうか。

仕事が一つ片付いたら、合間を縫うように次々とやることが出てきて「より多くの事をこなし、より早く事を進める」という価値観が当たり前として浸透しているように思う。もう少し肩の力を抜き、余裕をもつ環境も人間には大事なのではないかと感じている。力の抜き方を間違え、提出物や物忘れをして周囲に迷惑をかけている私は考えものだが…。

（出版部会　徳田 潤子）

編集後記 The editor's note

毎年夏になると地元の皆生でトライアスロン大会が開催される。三キロメートルのスイム、百四十キロメートルのバイク、そして最後にフルマラソンと続く過酷なレースだ。レース終盤、西日に照らされたマラソンコースでは、疲れ切ったランナーが足を止めている場面も見られる。膝に手を当て、息を整え、そしてまた走り始める。止まっていたランナーがまた走り始める姿は美しい。▼くじけそうになることもたくさんある。いや、くじけたっていいんじゃないのかな。そんな眼差しが向けられている気がする時がある。本当に時々だけど。▼「何度でも立ち止まって　また何度でも走り始めればいい　必要なのは走り続けることじゃない　走り始め続けることだ」（竹原ピストル「オールドルーキー」より）　（出版部会　比叡谷 真）

京都教区 2 月の行事予定

教区・地区・関係団体事業

5日(月)	15:00～18:00	准堂衆会	教区会館 3 階 研修室
6日(火)	14:00～16:30	靖国問題学習会	教区会館 3 階 会議室
7日(水)	10:30～15:30	坊守会 一日研修会 講師 長嶋 明子 氏（近江第6組 願證寺）	リーガロイヤルホテル 京都
7日(水)	13:00～17:00	部落差別問題に学ぶ同朋協議会 研修会	教区会館 2 階 大講堂
8日(木)	16:30～18:00	仏教青年会 声明教室	教区会館 2 階 大講堂
14日(水)	9:30～15:30	坊守会 基礎講座（Zoom 併用）	教区会館 2 階 大講堂
14日(水)	16:00～18:00	准堂衆会 声明会	教区会館 3 階 研修室
17日(土)	14:00～18:00	拾学舎（対面開催）	教区会館
22日(木)	13:30～16:30	推進員協議会 推進員女性大会 講師 藤場 芳子 氏（金沢教区 常讃寺）	教区会館 2 階 大講堂
26日(月)	13:00～15:00	准堂衆会 女性声明講習会	教区会館 2 階 大講堂
27日(火)	14:00～16:00	福島の声を聞く研修会	長浜教務所
28日(水)	16:00～18:00	准堂衆会 声明会	教区会館 3 階 研修室

教区諸会議

8日(木)	13:30～16:30	教化推進本部 出版部会（Zoom 会議）	Zoom
16日(金)	13:30～16:30	新教区準備委員会 常任委員会	教区会館 2 階 大講堂
19日(月)	14:00～16:30	教化推進本部 共同教化部会（仮称）巡回懇談会 近江第 1 組	大津別院
20日(火)	11:00～15:00	教化推進本部 男女共同参画部会	教区会館 3 階 会議室
21日(水)	14:00～17:00	教化推進本部 常任本部会	教区会館 2 階 大講堂

教区別院事業

5日(月)	14:00～16:00	山 科	定例法話 法話 川端裕敬 師（近江第1組 長蓮寺）	山科別院
5日(月)	12:00～13:00	赤野井	定例法要（教如上人）法話 中川眞 師（輪番）	赤野井別院
6日(火)	14:00～16:00	伏 見	声明作法講座 法話 浅井誠 師（山城第3組 皆演寺）	伏見別院
10日(土)	13:30～16:30	伏 見	同朋会	伏見別院
13日(火)	13:30～15:30	山 科	同朋の会 法話 赤松崇麿 師（教区駐在教導）	山科別院
19日(月)	19:00～21:00	伏 見	親鸞教室 法話 藤原正寿 師（大谷大学准教授）	伏見別院
22日(木)	14:00～16:00	大 津	同朋の会 聞法会 法話 村木宗徳 師（近江第1組 龍華寺）	大津別院
27日(火)	14:00～16:00	伏 見	ご命日の集い 法話 中村修司 師（山城第4組 西念寺）	伏見別院
27日(火)	12:00～13:00	赤野井	定例法要（宗祖親鸞聖人御命日逮夜）法話 中川眞 師（輪番）	赤野井別院

第 8 回「教勢調査」最終締切日迫る！

最終締切日　3 月 31 日(日)

紙もしくはインターネットでの回答にご協力ください

インターネットでの回答も引き続き可能です。
回答画面への URL　https://jodo-shinshu.info/ksr/
回答画面のパスワード　ksr2024

【 調査に関するお問い合わせ 】
真宗大谷派企画調整局「教勢調査 事務担当者」
［電話］075-371-9208［E-mail］ksr8@higashihonganji.or.jp

紙の調査票は、1 月 31 日時点でインターネットから回答いただいていない方を対象に 2 月末に送付しています。調査票に記入の上、調査票に同封された封筒にて返信いただきますようお願いいたします。
なお、インターネットで回答いただいた寺院・教会へも重複して紙の調査票が送付される場合がありますが、すでに回答いただいている場合は紙の調査票への記入・提出は不要です。
また、紙の調査票が届いた寺院・教会につきましても、インターネットで回答いただくことも可能です。

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌
『教区だより』第405号
［発行人］篠岡誓法（真宗大谷派京都教務所長）
［発行所］真宗大谷派京都教務所
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入
Tel:075(351)5260　Fax:075(351)5256

【表紙の写真】暦は春（石東組 善徳寺 河野恵嗣）
発行日　2024（令和 6）年 2 月 1 日
メールアドレス：kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト
https://www.k-kyoku.net
京都教務所　検索